

第195回 全経簿記検定試験 上級 一 会計学一 解説

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

問題1 正誤問題

1. 企業会計原則第二 二 A
2. 企業会計原則注解5
3. 自己株式及び準備金の額の減少等に関する会計基準9項、会社法第446条・第461条
4. 金融商品に関する会計基準28項
5. リース取引に関する会計基準13項
6. 棚卸資産の評価に関する会計基準19項
7. 固定資産の減損に係る会計基準三 2
8. スtock・オプション等に関する会計基準14項
9. 外貨建取引等会計処理基準注解9
10. 連結財務諸表に関する会計基準28項

問題2 貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準

解答を参照すること。

問題3 会計上の変更

1. 商品の原価配分方法の変更

例) 期首商品 120,000円 (@600円、200個)、当期仕入 400,000円 (@500円、800個)、当期販売数量 800個

- (1) 会計方針の変更や見積もりの変更が行われないままとしたときの数値(先入先出法)

- ① 損益計算書に計上される売上原価の金額

$$@600円 \times 200個 + @500円 \times \{800個(当期販売数量) - 200個(期首商品数量)\} = 420,000円$$

- ② 貸借対照表に計上される期末商品棚卸高

$$\{200個 + 800個 - 800個(当期販売数量)\} \times @500円 = 100,000円$$

- (2) 変更後の数値(総平均法)

※ 平均単価: $\{120,000円 + 400,000円\} \div \{200個 + 800個\} = @520円$

- ① 損益計算書に計上される売上原価の金額

$$@520円 \times 800個(当期販売数量) = 416,000円$$

- ② 貸借対照表に計上される期末商品棚卸高

$$\{200個 + 800個 - 800個(当期販売数量)\} \times @520円 = 104,000円$$

- (3) 解答の記号

- ① 損益計算書に計上される売上原価の金額

$$420,000円(上記(1)) > 416,000円(上記(2)) \quad \therefore (イ) 減少$$

- ② 貸借対照表に計上される期末商品棚卸高

$$100,000円(上記(1)) < 104,000円(上記(2)) \quad \therefore (ア) 増加$$

2. その他有価証券の評価差額の処理方法の変更

例) 取得原価 1,000,000 円、当期末時価 800,000 円、税効果会計は考慮しない

(1) 会計方針の変更や見積もりの変更が行われないままとしたときの数値 (部分純資産直入法)

<取得時>

(借)	その他有価証券	1,000,000	(貸)	現金預金	1,000,000
-----	---------	-----------	-----	------	-----------

<決算時>

(借)	有価証券評価損	200,000	(貸)	その他有価証券	200,000
-----	---------	---------	-----	---------	---------

※ 800,000 円 (当期末時価) - 1,000,000 円 (取得原価) = 200,000 円

- ① 損益計算書に計上される有価証券評価損の金額
200,000 円 (上記(1)<決算時>)
- ② 貸借対照表に計上されるその他有価証券の金額
1,000,000 円 (上記(1)<取得時>) - 200,000 円 (上記(1)<決算時>) = 800,000 円

(2) 変更後の数値 (全部純資産直入法)

<取得時>

(借)	その他有価証券	1,000,000	(貸)	現金預金	1,000,000
-----	---------	-----------	-----	------	-----------

<決算時>

(借)	その他有価証券評価差額金	200,000	(貸)	その他有価証券	200,000
-----	--------------	---------	-----	---------	---------

※ 800,000 円 (当期末時価) - 1,000,000 円 (取得原価) = 200,000 円

- ① 損益計算書に計上される有価証券評価損の金額
0 円 (上記(1)<決算時>)
- ② 貸借対照表に計上されるその他有価証券の金額
1,000,000 円 (上記(1)<取得時>) - 200,000 円 (上記(1)<決算時>) = 800,000 円

(3) 解答の記号

- ① 損益計算書に計上される有価証券評価損の金額
200,000 円 (上記(1)) > 0 円 (上記(2)) ∴ (イ) 減少
- ② 貸借対照表に計上されるその他有価証券の金額
800,000 円 (上記(1)) = 800,000 円 (上記(2)) ∴ (ウ) 不変

3. 有形固定資産の減価償却方法の変更

例) 取得原価 600,000 円、残存価額 0、耐用年数 5 年、期首減価償却累計額 120,000 円 (1 年経過)

(1) 会計方針の変更や見積もりの変更が行われないままとしたときの数値 (定額法)

① 損益計算書に計上される減価償却費の金額

$$600,000 \text{ 円 (取得原価)} \div 5 \text{ 年 (耐用年数)} = 120,000 \text{ 円}$$

② 貸借対照表に計上される備品の帳簿価額

$$600,000 \text{ 円 (取得原価)} - 120,000 \text{ 円 (期首減価償却累計額)} - 120,000 \text{ 円 (上記①)} = 360,000 \text{ 円}$$

(2) 変更後の数値 (級数法)

$$\text{※ 総項数: } \{4 \text{ 年 (残存耐用年数)} \times \{4 \text{ 年} + 1\}\} \div 2 = 10 \text{ 項}$$

① 損益計算書に計上される減価償却費の金額

$$\{600,000 \text{ 円 (取得原価)} - 120,000 \text{ 円 (期首減価償却累計額)}\} \times 4 \text{ 項 (当期項数)} / 10 \text{ 項} \\ = 192,000 \text{ 円}$$

② 貸借対照表に計上される備品の帳簿価額

$$600,000 \text{ 円 (取得原価)} - 120,000 \text{ 円 (期首減価償却累計額)} - 192,000 \text{ 円 (上記①)} = 288,000 \text{ 円}$$

(3) 解答の記号

① 損益計算書に計上される減価償却費の金額

$$120,000 \text{ 円 (上記(1))} < 192,000 \text{ 円 (上記(2))} \quad \therefore \text{(ア) 増加}$$

② 貸借対照表に計上される備品の帳簿価額

$$360,000 \text{ 円 (上記(1))} > 288,000 \text{ 円 (上記(2))} \quad \therefore \text{(ア) 減少}$$

4. 有形固定資産の耐用年数の変更

例) 取得原価 800,000 円、残存価額 0、耐用年数 8 年、定額法、期首減価償却累計額 400,000 円 (4 年経過)、耐用年数を 1 年延長

(1) 会計方針の変更や見積もりの変更が行われないままとしたときの数値 (残存耐用年数 4 年)

① 損益計算書に計上される減価償却費の金額

$$800,000 \text{ 円 (取得原価)} \div 8 \text{ 年 (耐用年数)} = 100,000 \text{ 円}$$

② 貸借対照表に計上される本社建物の帳簿価額

$$800,000 \text{ 円 (取得原価)} - 400,000 \text{ 円 (期首減価償却累計額)} - 100,000 \text{ 円 (上記①)} = 300,000 \text{ 円}$$

(2) 変更後の数値 (残存耐用年数 5 年)

① 損益計算書に計上される減価償却費の金額

$$\{800,000 \text{ 円 (取得原価)} - 400,000 \text{ 円 (期首減価償却累計額)}\} \div 5 \text{ 年 (残存耐用年数)} = 80,000 \text{ 円}$$

② 貸借対照表に計上される本社建物の帳簿価額

$$800,000 \text{ 円 (取得原価)} - 400,000 \text{ 円 (期首減価償却累計額)} - 80,000 \text{ 円 (上記①)} = 320,000 \text{ 円}$$

(3) 解答の記号

① 損益計算書に計上される減価償却費の金額

$$100,000 \text{ 円 (上記(1))} > 80,000 \text{ 円 (上記(2))} \quad \therefore \text{(イ) 減少}$$

② 貸借対照表に計上される本社建物の帳簿価額

$$300,000 \text{ 円 (上記(1))} < 320,000 \text{ 円 (上記(2))} \quad \therefore \text{(ア) 増加}$$